

レンズを通して

連載「十月」

写真・文 高円宮妃久子殿下



アマサギ

50 cm サギ科

分布は広く、南ヨーロッパ、アフリカからインド、東南アジア、オーストラリア、北米南部と南米で主に留鳥。
我が国では本州から九州で夏鳥、
南西諸島では冬鳥。夏羽は頭部から胸背にかけて、亜麻色になる。

鳥の名前あれこれ

写真文 高円宮妃久子

シェイクスピアの戯曲『ロミオとジュリエット』に「名前は何があるの？バラと呼ばれる花を別の名で呼んでも、甘い香りに変わりはない」（松岡和子訳）という名台詞があります。今回の話からいささか外れるかもしれませんが、シェイクスピア好きの私にとって、このテーマをあつかうなら、どうしても引用したい台詞です。日本には古くから先代や師匠の名前を襲名したり、屋号を使ったりする習慣がありますし、最近では「夫婦別姓」についてもいろいろ議論されています。そこで、今回は「鳥の名前にまつわる話」をいくつかご紹介したいと思います。最初は「アマサギ」です。求愛の時期になるとこのような垂麻色の繁殖羽になるので、この名前が付きましました。他方、実は山陰地方では「ワカサギ」という魚を「アマサギ」と呼びます。「アマ」は「味が良い」、「サギ」は「小さな魚」という意味で、「アマサギ」は宍道湖七珍のひとつです。鳥と魚の「アマサギ」がともに存在するのは山陰地方だけです。また、写真ではご紹介しませんが、鳥根県にはカモの仲間「シマアジ」も飛来します。「アマサギ」と「シマアジ」、山陰地方には鳥と魚が同じ名前のものが少なくとも



クロサギ

62・5cm サギ科
東南アジア、オーストラリア、ニュージーランド、ミクロネシアなどの海岸に分布。我が国では本州以南で留鳥。黒色型と白色型とがあり、全体が白色で所々に黒い羽の混ざる中間型も少数記録されている。

ふたついるということになります。

このページの写真は、海岸の岩礁などに生息している「クロサギ」、英名「Reef Heron」です。最初に出会ったのは35年ほど前で、宮様がダイビング中に船上からバードウォッチングをしていた時です。岩礁には黒いサギに交じって白いサギもあり、名前を聞いたら、「クロサギの白い個体です」とのこと！「名は体を表す」と申しますが、さすがに相対する白と黒では当てはまりません。心の中で「これって詐欺（サギ）では」と呟いてしまいました。

左のページでご紹介するのは、「ツミ」です。写真では大きく見えますが、日本で最小の猛禽で、写真のメスはキジバト、オスはヒヨドリほどのサイズしかありません。しかし実に優秀なハンターなのです。ツミの声が聞こえると、その狩りの対象となる鳥たちは、びたっと鳴くのを止め、物陰に隠れてじっとしています。メスの和名は「雀鷹」、オスは「悦哉」と呼ばれ、かつては別種と考えられていました。それがなぜメスの方の呼び名になったのかも気になります。

左下の写真は「ヤツガシラ」。独特のルックスと動きで、観る人を楽しませてくれる鳥ですが、同時に、サトイモの変種の名前でもあります。縁起の良い「八頭」という名から、そして、

親芋と子芋が分かれずごつごつした塊

になることから、子孫繁栄を願ってお節料理に使われるおめでたいお芋です。ともにユニークな雰囲気を持つ生き物と同じ名前が付けられた偶然に、ちょっと笑ってしまいます。

最後の写真は「ウソ」です。「フイー、フイー」と口笛のような澄んだ声で囀るので、「口笛を吹く」を意味する古語「うそぶく」から「ウソ」という名前になったと言います。ウソは姿も声も美しく、しばしば絵図に描かれ、その細く、哀愁の漂う寂しげな鳴き声は古くから愛されてきました。オスの頬から喉にかけての紅色が特徴的であり、その鮮やかさには個体差があります。また腹部近くまで赤い別亜種もいます。バーダーのレンズは常により赤い個体を探しており、「真つ赤なウソ」には人気が集まります。

今回は、いくつか鳥の名前について紹介させていただきました。名前にはそれぞれ由来があるはずですが、なぜその名前になったのか、わからない部分が多くあります。ただ、先に述べたシェイクスピアの台詞のように、鳥の名前も言ってみれば人間が勝手に付けたもの。名前の由来を詮索すること自体、あまり意味がないのかもしれないんですが、「嘘（ウソ）のような本当の話」は他にもありますので、またいつか別の機会にご紹介できればと思います。



ウソ

15・5cm アトリ科
ヨーロッパからユーラシア大陸中部を経てサハリン、カムチャッカまで分布。北方のものは冬期南に下る。わが国では北海道、本州中部以北で留鳥、本州南部から九州では冬鳥。亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、冬に低山に移動して過す。

ヤツガシラ

26cm ヤツガシラ科
ヨーロッパ、アフリカ、インド、東南アジア、中国、ロシア沿海州に分布し、北部のものは夏鳥。わが国では渡りの時期に迷鳥として各地で観察され、繁殖も見られて話題になる。昆虫などを食べる。



ツミ

オス27cm メス30cm タカ科
ロシアのバイカル湖から沿海州、サハリン、中国北部、朝鮮半島で繁殖し、冬は中国南部、東南アジアに渡る。我が国では全国で留鳥。市街地にも営巣し、近年は増加の傾向にある。写真の個体はメス。